

事例研究報告

特別支援学校中学部全体で
取り組むポジティブな登校支援

Ⅰ 実践研究の目的・ねらい

- 年間30日間以上の不登校生徒数の増加
- 小学校時代から不登校状態に
- その要因や背景が多様化
- 担任や一部教員だけの負担感



不登校生徒と担任を学部全体で支える体制作り

生徒が安心して、自信を持って、
楽しく過ごせる学部（学校）をつくる。

2 本校における SWPBS

第1層支援
全体支援
(全生徒対象)



第3層支援
登校支援
(5事例対象)

第2層支援
不登校予備軍



3 研究の目的（具体的内容）

【生徒】

- 不登校の生徒の出席率の増加。
- 不登校予備軍の生徒（第2層支援）の減少。



【教員】

- 担任が一人で問題を抱え込まなくてもよい。
- 次年度，担任が替わっても同じ方向性で指導できる。
- 教員のほめ方の向上と効果的なほめ方の共有。

4 登校支援（第3層支援）研究方法

1) 対象生徒

- ・平成29年度に年間30日以上
欠席している生徒 4名
※措置入院の生徒を除く。
- ・平成30年度5月現在で
欠席が続いている生徒 1名

計 5名



2) 登校支援の実施方法

①担任が毎日，**登校記録表**を記入。

(登校時間，欠席理由，教員の対応)

		登校記録表							6月			
月 日	週登校 日数 (登校/日)	登 校 時 間							欠席理由	教師の対応 (電話・トークン 等)		
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00			16:00	
6月1日									体調不良()・通院・他()			
6月4日									体調不良()・通院・他()			
6月5日				欠	席				体調不良(腹痛)・通院・他()	電話連絡		
6月6日									体調不良()・通院・他()			
6月7日									体調不良()・通院・他()			
6月8日									体調不良()・通院・他()			
6月11日									体調不良()・通院・他()			
6月12日									体調不良()・通院・他()			
6月13日								早退	体調不良(腹痛)・通院・他()	電話連絡		
6月14日				欠	席				体調不良(腹痛)・通院・他()			
6月15日				欠	席				体調不良() <u>通院</u> ・他(徳大)	電話連絡		
6月18日									体調不良(腹痛)・通院・他()			
6月19日									体調不良()・通院・他()			
6月20日				欠	席				体調不良()・通院・他()	電話連絡 朝あり		
6月21日									体調不良()・通院・他()			
6月22日									体調不良()・通院・他()			
6月25日									体調不良()・通院・他()			
6月26日									体調不良()・通院・他()			
6月27日									体調不良()・通院・他()			
6月28日									体調不良()・通院・他()			
6月29日									体調不良()・通院・他()			

② 登校記録表をもとに、事例検討会を実施。 (月1, 2回)



③ 事例検討会で話し合われた内容を実践。

研修会記録用紙

2 班 1130 年 11 月 15 日

現在の○の行動（登校記録や担任の話聞いて記入）※注1参照

例：㊦ 週2回以上登校することができた。10/17入院

㊦ 病院で担任と面会できた。

㊦ 病院でのプログラム(OTなど)に参加できた。㊦ 規則正しい生活を送ることができた。

㊦ 病院で体調不良のサングラスを送り、意思表示したりできた。

㊦ 同室の患者さんと一緒にごはんを食べることができた。

㊦ 手紙を書いて渡すことができた。

㊦ 毎日病院に寄って生徒の様子を見ている。

㊦ 寄宿舍に入った場合、帰宅日と週2日(水・金)と考えている。

次の目標（生徒の目標、保護者の目標をわけて記入）	評価◎○△
例：㊦ 1) 週3日以上登校することができる。	◎
㊦ 文化祭当日に見学に来ることができた。	◎
㊦ 寄宿舍の担任と面談する。	◎
㊦ 登校し、担任に意思表示できる。	◎
㊦ 学校で給食を食べる。	◎

次の目標に向けての支援（目標に対応する教員の手立てを記入）	実施有無
例：1) ㊦ 生徒用登校記録表を準備。登校後生徒がチェックするよう声かけ。 ㊦ 登校できたときは、必ず声かけする。	4 3
㊦ 保護者にデイベースの情報提供する。(個室利用可、自宅への送迎あり)	1
㊦ 登校した時には、買い物学習と実施したり、iPadをゴボウむしり設定したりして、本人が楽しんでいる活動をする。	4
㊦, T 寄宿舍指導員を含めて、ケース会と実施する。	4
㊦ カームの場所を確保しておく。	4

注1：生徒→㊦ 保護者→㊦ 担任→㊦ その他教員→㊦ 記録→㊦
 注2：評価 ◎→8割以上 ○→5割以上 △→5割以下 未→未実施
 注3：実施有無 4：実施した 3：ほぼ行った 2：あまり行えなかった 1：未実施

3) 事例検討会の実施方法

(1) 【実態把握】

* (1) ~ (3) で約20分間

登校記録表を見ながら，事例生徒の現在の様子について担任が説明する。

登校記録表		6月							欠席理由	教師の対応 (電話・トークン等)
月 日	通登校 日数 (登校/日)	登校時間								
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00		
6月1日									体調不良()・通院・他()	
6月4日									体調不良()・通院・他()	
6月5日				欠席					体調不良(腹痛)・通院・他()	電話連絡
6月6日									体調不良()・通院・他()	
6月7日									体調不良()・通院・他()	
6月8日									体調不良()・通院・他()	
6月11日									体調不良()・通院・他()	
6月12日									体調不良()・通院・他()	
6月13日								早退	体調不良(腹痛)・通院・他()	電話連絡
6月14日				欠席					体調不良(腹痛)・通院・他()	
6月15日				欠席					体調不良()・通院・他()	電話連絡
6月18日									体調不良(腹痛)・通院・他()	
6月19日									体調不良()・通院・他()	
6月20日				欠席					体調不良()・通院・他()	電話連絡 朝あり
6月21日									体調不良()・通院・他()	
6月22日									体調不良()・通院・他()	
6月25日									体調不良()・通院・他()	
6月26日									体調不良()・通院・他()	
6月27日									体調不良()・通院・他()	
6月28日									体調不良()・通院・他()	
6月29日									体調不良()・通院・他()	



(2) 【○の行動の共有】

(1) をもとに，チームの教員で話し合い，生徒や保護者，教員が「○（適切）」の行動を用紙に記入する。

現在の○の行動（登校記録や担任の話聞いて記入）※注1参照

例：(き) 週2回以上登校することができた。

- (せ) 目標の80% 登校が達成した。
- (ほ) 風邪の疑い→ すぐに病院に行き，薬をもらう。
- (せ) 10月に入って休みが1日のみ。
- (せ) 休みがちな水曜に登校できている。
- (T1) 保護者と懇談を行った。
- (せ) 文化祭に向けて積極的に活動できている。
- (せ) テスト勉強も前向きに取り組んでいる。
- (せ)(T) 体育でグリーンカードをもらえた。
(※グリーンカード…めあてが守れた時にもらえるカード)



生徒
保護者
担任
担任以外の
教員

(3) 【短期目標】，【手立て・支援方法】の評価
2週間（1ヶ月）の間にその支援を実施したか
否かを話し合い，評価する。

(4) 【短期目標の設定】 * (4) (5) で約20分間
次（2週間，もしくは1ヶ月後）の目標をチームで
考えて用紙に記入する。

(5) 【手立て・支援方法の決定】

次の目標に向けて，次回の研修までに取り組む
支援方法を考えて用紙に記入する。

(4) (5) 目標・支援方法の記録より

次の目標（生徒の目標，保護者の目標をわけて記入）	評価◎○△
例：㊦ 1) 週3日以上登校することができる。 ㊦ 文化祭の当日に見学しに来ることができる。 ㊦ 寄宿舎の担任と面談をする。 ㊦ 登校し，担任に意思表示できる。 ㊦ 学校で給食を食べることができる。	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
次の目標に向けての支援（目標に対応する教員の手立てを記入）	実施有無
例：1) ㊦ 生徒用登校記録表を準備。登校後生徒がチェックするよう声かけ。 ㊦ 登校できたときは，必ず声かけする。 ㊦ 保護者にデイサービスの情報提供する。 （個室利用可。自宅への送迎あり。） ㊦ 登校してきた時には，買い物学習をしたり， iPadをごほうびとして設定したりして，本人が 楽しみにしている活動をする。 ㊦ ㊦ 寄宿舎指導員を含めてケース会を実施する。 ㊦ カームダウンの場所を確保しておく。	4 3 1 4 4 4

(6) 【チーム毎に発表】 * (6) で約15分間

1チーム2分程度ずつ，話し合われた内容について発表する。

3) 事例検討会

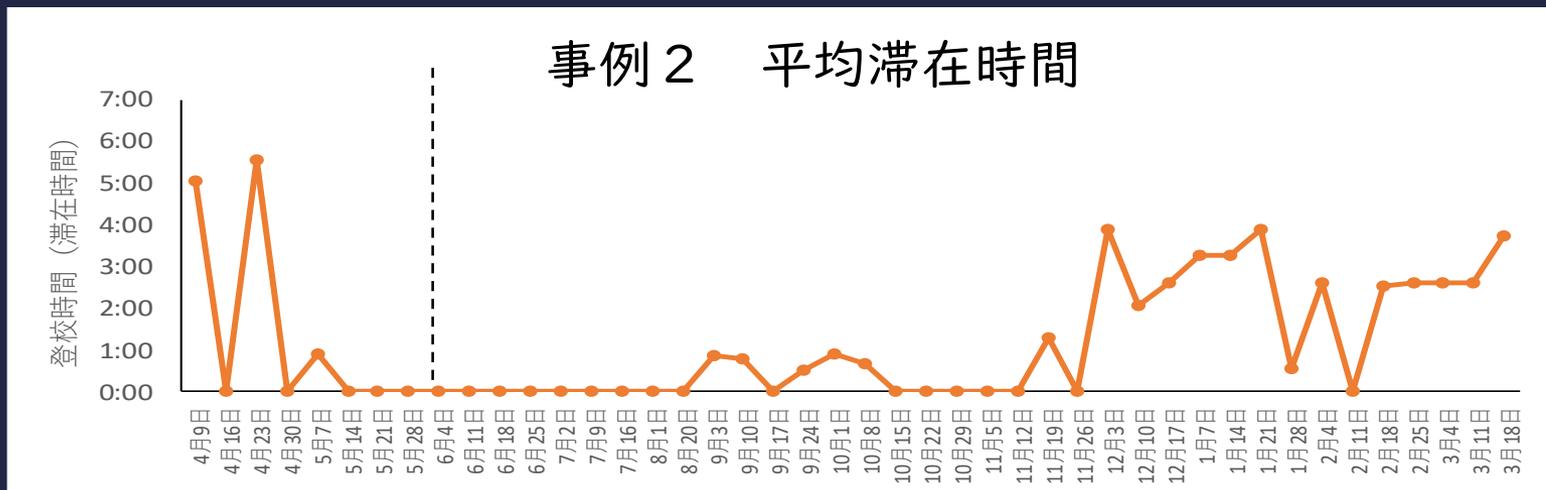
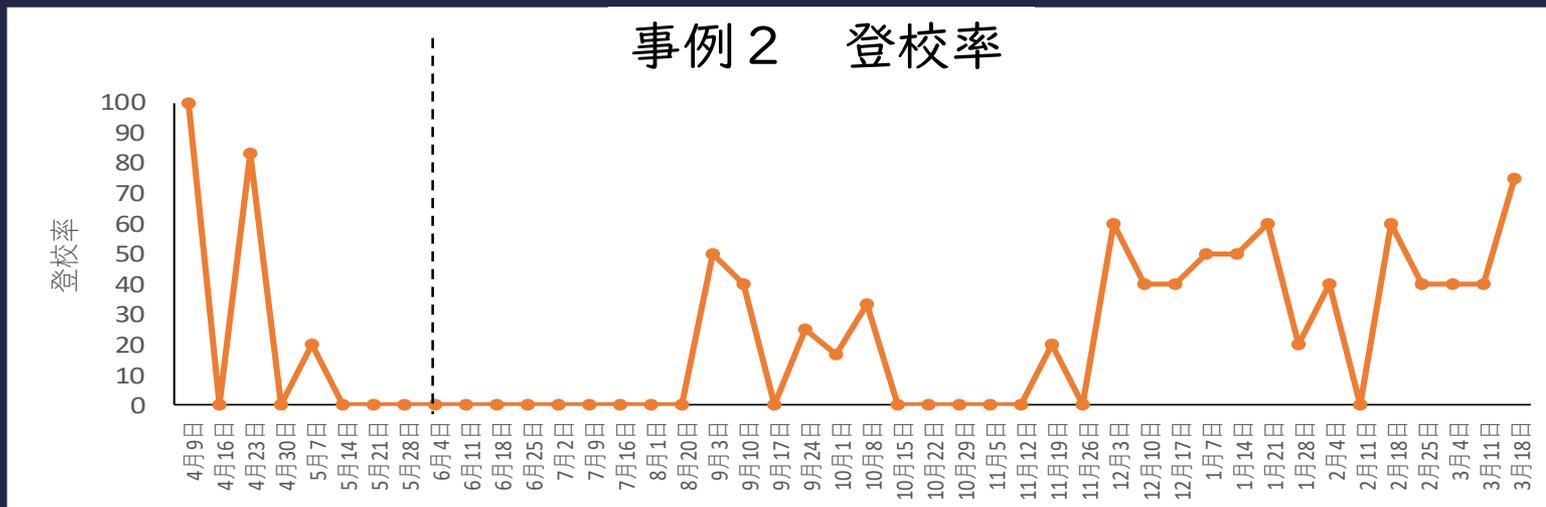
立案した支援・情報共有の内容

- 「行事など楽しいときだけ学校にくるのは適切ではない」という教員の考え方を変える。(6月)
- 体育が苦手。体育でグリーンカード(めあてが守れた人にもらえるごほうびカード)をもらえる機会を増やしてほしい。(6月)
- ポケモンの宿題を出す。作成に担任の負担が大きいため、教員みんなで作成する。(12月)



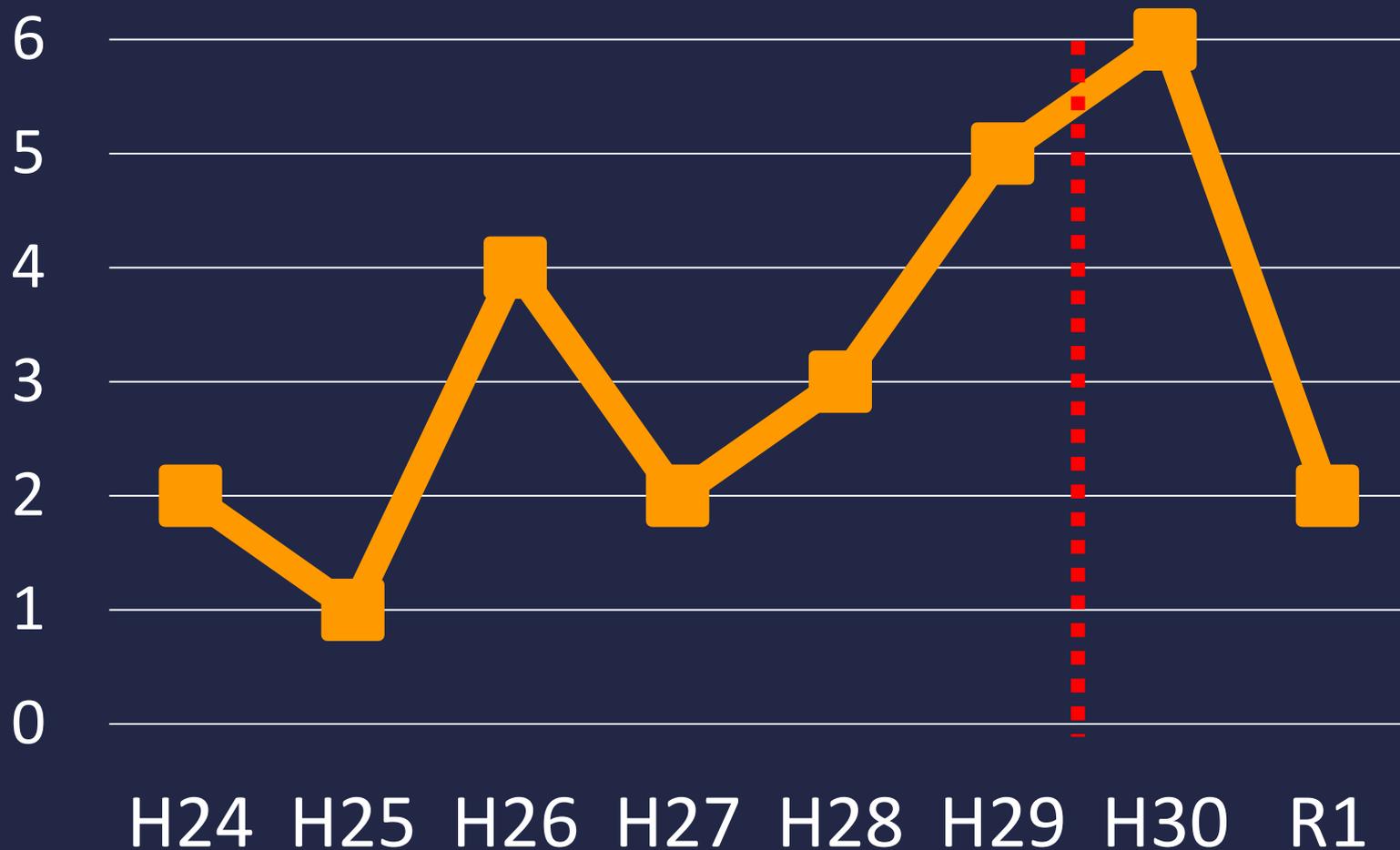
5 登校支援 結果

1) 事例2の登校率及び平均滞在時間



2) 本校における年間30日以上の不登校の生徒数変化

(人数)



3) 登校支援結果

- 登校率上昇が見られたのは、5事例中3事例。
- R元年度、4事例中3事例は、昨年度の研究後（H30年6月以降）と比較しても、登校率や滞在時間とも大幅に上昇。

< R元年度12月末現在（H30年度登校率） >

【登校率】 事例1 20% (38%)

事例2 77% (20%)

事例3 89% (81%)

事例4 79% (50%)



6 まとめ（教員アンケートより）

<担任>

- ・ 共通理解が深まった。
- ・ 様々な支援方法を知ることができた。
- ・ チームで取り組み一体感があった。
- ・ 色々な話し合いを重ね、自分の考えに広がりを持てた。



<担任以外>

- ・ 対象チームや他チームの生徒の実態や経過を知ることができ問題を共有できた。
- ・ 生徒の気持ちに寄り添い、関わりが変わった。
- ・ ポジティブな支援を行い、積極的に関わるようになった。

ここがポイント

不登校の問題を学部全体の問題とし、全教員で一貫したポジティブな支援の実施。



- 短時間で効率的な話し合い

- 事例検討会のシステム化

- (記録, 時間設定, ○の行動からの話し合い等)

- 話すことで生まれる, 広がる, 強まる

- 教員同士のつながり

- 教員のほめる回数増加, 及び効果的なほめ方の共有。

今後の展開

● 【行動目標設定表の作成】

- ・ 登校支援で活用した話し合いの枠組みを利用
- ・ 全障がい種を対象とし、全教員で作成（R元年度）



● R2年度 「全教員で」

- ・ 共通の目標を持つ
- ・ 情報共有する
- ・ 全生徒の支援を実施する
- ・ 生徒にフィードバックする

	ルールを守ろう		すてきなことばをつかおう		チャレンジしよう	
授業中	知的 病弱 肢体	・時間を守ろう (始まり・終わり・作業時間) ・決められた活動をしよう	知的 病弱 肢体	・「です」「ます」を使おう ・援助要求をしよう	知的 病弱 肢体	・自分の目標を達成しよう ・自分の意思を伝えよう (挙手・カード選択)
	自立主	・指示や促しに応じて活動に参加しよう	自立主	・対象物(教材等)に手を出そう ・発声しよう	自立主	・選択をしよう (タブレット・具体物に手を伸ばさず・視線を向ける)
給食	知的 病弱 肢体	・適切な姿勢で食べよう ・手や口を清潔にしよう	知的 病弱 肢体	・「いただきます」「ごちそうさま」を言おう ・手伝わってもらったらお礼を言おう	知的 病弱 肢体	・苦手な食材も食べてみよう ・自分から準備や後片付けをしよう
	自立主	・完食しよう	自立主	・食べたい気持ちを伝えよう (手を伸ばさず・視線を向ける)	自立主	・味や匂いを感じよう ・苦手な食材も食べてみよう
休み時間	知的 病弱 肢体	・トイレをすませて遊ぼう ・人と適切な距離をとろう	知的 病弱 肢体	・「ありがとう」「ごめんね」「一緒にしよう」を言おう ・教室から出るときは行き先を伝えよう (トイレ・次の授業)	知的 病弱 肢体	・いろいろな友達や先生と関わろう ・いろいろな遊びをしよう
	自立主	・トイレに行こう ・水分補給をしよう	自立主	・遊びを選択しよう (手を伸ばさず・視線を向ける) ・教員の働きかけに対して応答しよう (発声・目をばちばち・快の表情)	自立主	・遊びを選択しよう (手を伸ばさず・視線を向ける) ・教員の働きかけに対して応答しよう (発声・目をばちばち・快の表情)
登下校 (朝の会・帰りの会)	知的 病弱 肢体	・朝・帰りの準備を時間までにしよう ・話をしている人の方を向こう	知的 病弱 肢体	・名前を呼ばれたら返事をしよう ・友達や先生に「おはようございます」「さようなら」を言おう	知的 病弱 肢体	・自分のできることを増やそう ・目標を決めたり振り返ったりしよう
	自立主	・朝の会・帰りの会で係の仕事をしよう (スイッチ)	自立主	・あいさつをしよう (発声、ハイタッチ、笑顔、アイコンタクト)	自立主	・クラス外の人とあいさつをしよう